

こんにちは!!
市長です Vol.22

「慰霊登山」



御巢鷹の尾根にて(8月12日)

今年の夏、皆さんはどう過ごされましたか。
私は8月12日、520人の犠牲者を出した日航機墜落事故から34年がたった、上野村の御巢鷹の尾根に慰霊登山に

行きました。

一九八五年(昭和60年)の当日、県庁で補正予算の編成作業をしていました。夕刻に、日航機墜落のニュースが入り、情報収集を行いました。消防団、警察、自衛隊の大規模な救助活動が行われましたが、生存者は4人だけでした。

その後、事故対応への財政対策などで、長期間、国との調整に当たる仕事に追われました。

事故機に搭乗していた一人に、夏の高校野球全国大会に群馬県代表として出場していた東京農業大学第二高等学校の生徒の父親である、元プロ野球選手の竹下元章さんがいました。群馬県在住の犠牲者は、一人でした。

事故から34年後の今年の夏、当時の事を思いながら御巢鷹の尾根を目指しました。途中、ここに来るのも今年が最後になるかもしれないと話していた年配の方、小さいお子さんにおじいちゃんはどこで最期を迎えたのだよと話す父親、孫の写真を持って報告に来たおばあちゃんに会い、時の経過を感じました。

そして、御巢鷹の尾根の「昇魂の碑」の前に立ち、命の尊さ、危機管理の重さを改めて心に刻みました。